

【表紙】

| | |
|------------|-----------------------------------|
| 【提出書類】 | 四半期報告書 |
| 【根拠条文】 | 金融商品取引法第24条の4の7第1項 |
| 【提出先】 | 関東財務局長 |
| 【提出日】 | 平成29年8月3日 |
| 【四半期会計期間】 | 第43期第1四半期（自平成29年4月1日 至平成29年6月30日） |
| 【会社名】 | 株式会社カインス |
| 【英訳名】 | KAINOS Laboratories, Inc. |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役社長 上地 史朗 |
| 【本店の所在の場所】 | 東京都文京区本郷二丁目38番18号 |
| 【電話番号】 | 03(3816)4123 |
| 【事務連絡者氏名】 | 取締役 管理本部本部長 林 司 |
| 【最寄りの連絡場所】 | 東京都文京区本郷二丁目38番18号 |
| 【電話番号】 | 03(3816)4123 |
| 【事務連絡者氏名】 | 取締役 管理本部本部長 林 司 |
| 【縦覧に供する場所】 | 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) |

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | 第42期 第1四半期 累計期間 | 第43期 第1四半期 累計期間 | 第42期 |
|----------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 会計期間 | 自 平成28年 4月1日 至 平成28年 6月30日 | 自 平成29年 4月1日 至 平成29年 6月30日 | 自 平成28年 4月1日 至 平成29年 3月31日 |
| 売上高 (千円) | 1,266,642 | 985,818 | 4,703,301 |
| 経常利益 (千円) | 160,762 | 93,320 | 468,081 |
| 四半期(当期)純利益 (千円) | 85,383 | 58,795 | 309,817 |
| 持分法を適用した場合の投資利益 (千円) | - | - | - |
| 資本金 (千円) | 831,413 | 831,413 | 831,413 |
| 発行済株式総数 (株) | 4,558,860 | 4,558,860 | 4,558,860 |
| 純資産額 (千円) | 3,378,738 | 3,649,836 | 3,642,984 |
| 総資産額 (千円) | 5,655,022 | 5,645,889 | 5,803,435 |
| 1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円) | 20.43 | 14.07 | 74.12 |
| 潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円) | - | - | - |
| 1株当たり配当額 (円) | - | - | 12.50 |
| 自己資本比率 (%) | 59.7 | 64.6 | 62.8 |

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 当社は、第41期より「株式給付信託(J-ESOP)」、第42期より「株式給付信託(BBT)」を導入しております。本制度の導入に伴い、当該信託口が保有する当社株式を1株当たり四半期(当期)純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

2【事業の内容】

当第1四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1)業績の状況

当第1四半期累計期間における国内経済は、前事業年度に引き続いて設備投資が拡大したことから、企業収益では緩やかな改善傾向を示しました。

一方、海外経済においては、米国の政権運営及び欧州での英国のEU離脱などの影響も憂慮されており、引き続き予断を許さない状況で推移するものと思われます。

臨床検査業界におきましては、市場自体は横ばいから微増ながらも、価格競争等により引き続き厳しい状況は継続しております。

このような環境の下、当第1四半期累計期間の売上高につきましては、9億8千5百万円（前年同期比22.2%減）となりました。

検査分野別で見ると、生化学検査分野におきましては、肝機能検査試薬及び腎機能検査試薬が堅調に推移したことにより4億7千8百万円（前年同期比8.7%増）となりました。

免疫検査分野におきましては、輸血検査試薬が堅調に推移する一方、アレルギー検査試薬が競合品の影響を受けたことにより4億7千8百万円（前年同期比32.4%減）となりました。

また、その他の分野におきましては、特許期間が終了したため、ロイヤリティ収入が無くなり2千8百万円（前年同期比75.7%減）となりました。

この結果、営業利益につきましては、7千9百万円（前年同期比56.3%減）、経常利益につきましては、9千3百万円（前年同期比42.0%減）となり、四半期純利益につきましては、5千8百万円（前年同期比31.1%減）となりました。

(2)資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期会計期間末における総資産の額は、56億4千5百万円となり、前事業年度末と比べ1億5千7百万円減少いたしました。流動資産は26億7千7百万円となり、前事業年度末と比べ1億3千6百万円の減少となりました。その主な要因は、たな卸資産が4百万円増加したものの、受取手形及び売掛金が1億2千3百万円、繰延税金資産などその他が2千1百万円減少したことによります。固定資産は29億6千8百万円となり、前事業年度末と比べ2千1百万円の減少となりました。その主な要因は、減価償却の進捗などによるものです。

当第1四半期会計期間末における負債の額は、19億9千6百万円となり、前事業年度末と比べ1億6千4百万円の減少となりました。その主な要因は、短期借入金が1億9千万円増加したものの支払手形及び買掛金が5千2百万円、未払法人税等が6千9百万円、賞与引当金が6千1百万円、長期借入金が1億円及び流動負債のその他が7千3百万円それぞれ減少したことによります。

当第1四半期会計期間末における純資産の額は、36億4千9百万円となり、前事業年度末と比べ6百万円の増加となりました。その主な要因は、利益剰余金の配当により5千5百万円減少したものの、四半期純利益5千8百万円を計上したことによるものです。

(3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4)研究開発活動

当第1四半期累計期間における研究開発活動の金額は4千5百万円であります。

なお、当第1四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5)経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当社の経営成績に重要な影響を与える要因といたしましては、診療報酬改定をはじめとした国の医療保険制度改革や医療機関の経営合理化による医療費引き下げなどの外的要因による収益の変動が考えられます。

また、輸血関連機器試薬は、為替相場の推移によって各年度における収益予想が大きく変動する可能性があります。

国内経済は金融緩和等の効果により引き続き緩やかに改善していくものと思われませんが、米国の政権運営や欧州での英国のEU離脱による海外情勢変化の影響等も懸念されており、今後の景気回復見通しについては依然不透明な状況にあります。

また、臨床検査薬業界におきましては、診療報酬改定等の医療費抑制政策及び価格競争などにより市場環境は更に厳しさを増していくものと思われれます。

当社におきましては、生化学検査分野では、主に腎機能検査試薬の改良品をはじめとした血清マルチキャリブレーター項目の拡販、免疫検査分野では輸血関連製品などの積極的な拡販を図ってまいります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 16,000,000 |
| 計 | 16,000,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年6月30日) | 提出日現在発行数(株) (平成29年8月3日) | 上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名 | 内容 |
|------|--|----------------------------|------------------------------------|---|
| 普通株式 | 4,558,860 | 4,558,860 | 東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード) | 権利内容に何ら 限定のない当社 における標準と なる株式であ り、単元株式数 は100株であり ます。 |
| 計 | 4,558,860 | 4,558,860 | - | - |

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式総 数増減数 (株) | 発行済株式総 数残高(株) | 資本金増減額 (千円) | 資本金残高 (千円) | 資本準備金増 減額(千円) | 資本準備金残 高(千円) |
|--------------------------|-----------------------|------------------|----------------|---------------|------------------|-----------------|
| 平成29年4月1日～ 平成29年6月30日 | - | 4,558,860 | - | 831,413 | - | 928,733 |

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】
【発行済株式】

平成29年6月30日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|--------------------------|----------|-----------|
| 無議決権株式 | - | - | - |
| 議決権制限株式(自己株式等) | - | - | - |
| 議決権制限株式(その他) | - | - | - |
| 完全議決権株式(自己株式等) | (自己保有株式) 普通株式 100,800 | - | 単元株式数100株 |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 4,457,100 | 44,571 | 同上 |
| 単元未満株式 | 普通株式 960 | - | - |
| 発行済株式総数 | 4,558,860 | - | - |
| 総株主の議決権 | - | 44,571 | - |

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式1,000株(議決権の数10個)が含まれております。また、「株式給付信託(J-ESOP)」及び「株式給付信託(BBT)」の信託財産(所有者名義「資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)」278,000株(議決権2,780個))が含まれております。
2. 「単元未満株式」の欄には、自己株式10株が含まれております。

【自己株式等】

平成29年6月30日現在

| 所有者の氏名又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義所有株式数(株) | 他人名義所有株式数(株) | 所有株式数の合計(株) | 発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%) |
|----------------------|-----------------------|--------------|--------------|-------------|------------------------|
| (自己保有株式) 株式会社カイノス | 東京都文京区本郷二丁目 38番18号 | 100,800 | - | 100,800 | 2.21 |
| 計 | - | 100,800 | - | 100,800 | 2.21 |

- (注) 「株式給付信託(J-ESOP)」及び「株式給付信託(BBT)」の信託財産(所有者名義「資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)」)278,000株は、四半期財務諸表において自己株式として表示しておりますが、当該株式は、当社の信託管理人の指図に従い議決権行使されるため、上記に含めておりません。

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期会計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）及び第1四半期累計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）に係る四半期財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1【四半期財務諸表】

(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (平成29年3月31日) | 当第1四半期会計期間 (平成29年6月30日) |
|--------------|-----------------------|----------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 1,201,838 | 1,205,829 |
| 受取手形及び売掛金 | 1,061,759 | 937,979 |
| 商品及び製品 | 254,264 | 248,009 |
| 仕掛品 | 57,666 | 59,705 |
| 原材料及び貯蔵品 | 148,502 | 157,590 |
| その他 | 92,571 | 71,442 |
| 貸倒引当金 | 2,900 | 2,900 |
| 流動資産合計 | 2,813,702 | 2,677,656 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物(純額) | 682,489 | 671,662 |
| 土地 | 1,851,453 | 1,851,453 |
| その他(純額) | 214,957 | 173,089 |
| 有形固定資産合計 | 2,748,899 | 2,696,205 |
| 無形固定資産 | 13,576 | 39,705 |
| 投資その他の資産 | 227,257 | 232,321 |
| 固定資産合計 | 2,989,732 | 2,968,232 |
| 資産合計 | 5,803,435 | 5,645,889 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 504,235 | 451,755 |
| 短期借入金 | 600,000 | 790,000 |
| 未払法人税等 | 76,607 | 7,317 |
| 賞与引当金 | 116,080 | 54,200 |
| その他 | 410,268 | 336,887 |
| 流動負債合計 | 1,707,191 | 1,640,160 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 400,000 | 300,000 |
| 役員株式給付引当金 | - | 5,637 |
| その他 | 53,258 | 50,255 |
| 固定負債合計 | 453,258 | 355,893 |
| 負債合計 | 2,160,450 | 1,996,053 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 831,413 | 831,413 |
| 資本剰余金 | 928,733 | 928,733 |
| 利益剰余金 | 2,045,580 | 2,048,649 |
| 自己株式 | 223,303 | 223,303 |
| 株主資本合計 | 3,582,423 | 3,585,493 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 60,561 | 64,342 |
| 評価・換算差額等合計 | 60,561 | 64,342 |
| 純資産合計 | 3,642,984 | 3,649,836 |
| 負債純資産合計 | 5,803,435 | 5,645,889 |

(2)【四半期損益計算書】
【第1四半期累計期間】

(単位：千円)

| | 前第1四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日) | 当第1四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日) |
|--------------|---|---|
| 売上高 | 1,266,642 | 985,818 |
| 売上原価 | 675,180 | 524,556 |
| 売上総利益 | 591,462 | 461,262 |
| 販売費及び一般管理費 | 409,420 | 381,797 |
| 営業利益 | 182,042 | 79,464 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息及び配当金 | 2,920 | 3,243 |
| 為替差益 | - | 13,108 |
| その他 | 867 | 330 |
| 営業外収益合計 | 3,788 | 16,683 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 2,982 | 2,492 |
| 手形売却損 | 177 | 146 |
| 為替差損 | 21,180 | - |
| その他 | 727 | 189 |
| 営業外費用合計 | 25,067 | 2,828 |
| 経常利益 | 160,762 | 93,320 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 8,049 | - |
| 特別損失合計 | 8,049 | - |
| 税引前四半期純利益 | 152,713 | 93,320 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 3,030 | 5,524 |
| 法人税等調整額 | 64,300 | 29,000 |
| 法人税等合計 | 67,330 | 34,524 |
| 四半期純利益 | 85,383 | 58,795 |

【注記事項】

(追加情報)

(株式給付信託(J-ESOP)について)

(1)取引の概要

当社は、株価や業績と従業員の処遇の連動性をより高め、経済的な効果を株主の皆様と共有することにより、株価及び業績向上への従業員の意欲や士気を高めることを目的として、従業員インセンティブ・プラン「株式給付信託(J-ESOP)」(以下「本制度」といいます。)を導入しております。

本制度は、予め当社が定めた株式給付規程に基づき、一定の要件を満たした当社の従業員に対して当社株式を給付する仕組みです。当社は、従業員に対し個人の貢献度等に応じてポイントを付与し、一定の条件により受給権の取得をしたときに当該付与ポイントに相当する当社株式を給付します。従業員に対し給付する株式については、予め信託設定した金銭により将来分も含め取得し、信託財産として分別管理するものとします。

(2)信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く)により、純資産の部に自己株式として計上しております。当第1四半期会計期間末における当該自己株式の帳簿価額は105,120千円、株式数は180,000株であります。

(株式給付信託(BBT)について)

(1)取引の概要

当社は取締役の報酬と当社の業績及び株式価値との連動性をより明確にし、取締役が株価上昇によるメリットのみならず、株価下落リスクまでも株主の皆様と共有することで、中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的として、株式報酬制度「株式給付信託(BBT)」(以下、「本制度」といいます。)を導入しております。

本制度は、予め当社が定めた役員株式給付規程に基づき、一定の要件を満たした取締役に対して当社株式を給付する仕組みです。当社は、役員株式給付規程に基づき取締役にポイントを付与し、取締役を退任した者のうち「役員株式給付規程」に定める受益者要件を満たした者(以下、「受益者」といいます。)に対して、当該受益者に付与されたポイント数に応じた当社株式を給付します。ただし、取締役が「役員株式給付規程」に別途定める要件を満たす場合には、当該取締役に付与されたポイントの一定割合について、当社株式の給付に代えて、当社株式を退任日時点の時価で換算した金額相当の金銭を給付します。取締役に対し給付する株式については、予め信託設定した金銭により将来分も含め取得し、信託財産として分別管理するものとします。

(2)信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く)により、純資産の部に自己株式として計上しております。当第1四半期会計期間末における当該自己株式の帳簿価額は51,156千円、株式数は98,000株であります。

(3)会計処理の方法

「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号平成27年3月26日)に準じて、総額法を適用しております。規程に基づき役員に付与したポイント数を基礎として、費用及びこれに対応する引当金を計上しております。

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)
該当事項はありません。

(四半期貸借対照表関係)

1. 受取手形割引高

| | 前事業年度 (平成29年3月31日) | 当第1四半期会計期間 (平成29年6月30日) |
|---------|-----------------------|----------------------------|
| 受取手形割引高 | 150,085千円 | 150,252千円 |

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

| | 前第1四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日) | 当第1四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日) |
|-------|---|---|
| 減価償却費 | 33,408千円 | 28,344千円 |

(株主資本等関係)

前第1四半期累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 平成28年6月16日 定時株主総会 | 普通株式 | 54,504 | 12.50 | 平成28年3月31日 | 平成28年6月17日 | 利益剰余金 |

(注)平成28年6月16日定時株主総会決議による配当金の総額には、信託が保有する自社の株式に対する配当金2,250千円が含まれております。

当第1四半期累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 平成29年6月15日 定時株主総会 | 普通株式 | 55,725 | 12.50 | 平成29年3月31日 | 平成29年6月16日 | 利益剰余金 |

(注)平成29年6月15日定時株主総会決議による配当金の総額には、信託が保有する自社の株式に対する配当金3,475千円が含まれております。

(金融商品関係)

四半期財務諸表等規則第10条の2の規定に基づき注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期財務諸表等規則第10条の2の規定に基づき注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

四半期財務諸表等規則第10条の2の規定に基づき注記を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、臨床検査薬の製造及び販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前第 1 四半期累計期間 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成28年 6 月30日) | 当第 1 四半期累計期間 (自 平成29年 4 月 1 日 至 平成29年 6 月30日) |
|------------------------|---|---|
| 1 株当たり四半期純利益金額 | 20円43銭 | 14円07銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 四半期純利益金額 (千円) | 85,383 | 58,795 |
| 普通株主に帰属しない金額 (千円) | - | - |
| 普通株式に係る四半期純利益金額 (千円) | 85,383 | 58,795 |
| 普通株式の期中平均株式数 (株) | 4,180,192 | 4,180,050 |

- (注) 1 . 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2 . 株主資本において自己株式として計上されている信託に残存する自社の株式は、1 株当たり四半期純利益金額の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式数に含めております。1 株当たり四半期純利益金額の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は、当第 1 四半期累計期間278,000株であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 8月 3日

株式会社カインス

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 春日 淳志 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 酒井 睦史 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社カインスの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第43期事業年度の第1四半期会計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）及び第1四半期累計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社カインスの平成29年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。